

# 「1人1台端末・高速通信環境」がもたらす学びの変容イメージ

## GIGAスクール構想

- ✓ 1人1台端末と、高速大容量の通信ネットワークを一体的に整備することで、特別な支援を必要とする子供を含め、多様な子供たち一人一人に個別最適化され、資質・能力が一層確実に育成できる教育ICT環境を実現する
- ✓ これまでの我が国の教育実践と最先端のICTのベストミックスを図り、教師・児童生徒の力を最大限に引き出す

これまでの教育実践の蓄積 × ICT = 学習活動の一層充実  
主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善

	「1人1台端末」ではない環境	学びの深化	「1人1台端末」の環境
一斉学習	<ul style="list-style-type: none"> <li>教師が電子黒板等を用いて説明し、子供たちの興味関心意欲を高めることはできる</li> </ul>	学びの転換	<ul style="list-style-type: none"> <li>教師は授業中でも一人一人の反応を把握できる → 子供たち一人一人の反応を踏まえた、双方向型の一斉授業が可能に</li> </ul>
個別学習	<ul style="list-style-type: none"> <li>全員が同時に同じ内容を学習する（一人一人の理解度等に応じた学びは困難）</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>各人が同時に別々の内容を学習できる</li> <li>各人の学習履歴が自動的に記録される → 一人一人の教育的ニーズや、学習状況に応じた個別学習が可能に</li> </ul>
協働学習	<ul style="list-style-type: none"> <li>グループ発表ならば可能だが、自分独自の意見は発信しにくい（積極的な子はいつも発表するが、控えめな子は「お客さん」に）</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>一人一人が記事や動画等を集め、独自の視点で情報を編集できる</li> <li>各自の考えを即時に共有し、共同編集ができる → 全ての子供が情報の編集を経験しつつ、多様な意見にも即時に触れられる</li> </ul>

## 「1人1台端末」の活用によって充実する学習の例

- ☑ 調べ学習 課題や目的に応じて、インターネット等を用い、記事や動画等の様々な情報を主体的に収集・整理・分析
- ☑ 表現・制作 推敲しながらの長文の作成や、写真・音声・動画等を用いた多様な資料・作品の制作
- ☑ 遠隔教育 大学・海外・専門家との連携、過疎地・離島の子供たちが多様な考えに触れる機会、入院中の子供と教室をつないだ学び
- ☑ 情報モラル教育 実際に真偽様々な情報を活用する各場面（収集・発信など）における学習

3

## 工夫次第で、学びの可能性は無限大に。

### ステップ1

”すぐにでも“ ”どの教科でも“  
”誰でも”活かせる1人1台端末

### ステップ2






教科の学びを深める  
教科の学びの本質に迫る

### ステップ3

教科の学びをつなぐ。  
社会課題等の解決や  
一人一人の夢の実現に活かす。

## ステップ2：教科の学びを深める。教科の学びの本質に迫る。（中学校版）

例えば…

- 
**国語** 書く過程を記録し、よりよい文章作成に役立てる
  - 文章作成ソフトの校閲機能を用いて推敲させることで修正の履歴を残すことができ、教師による評価の信頼性や妥当性の向上にも資する。
- 
**理科** シミュレーションを活用して、観測しにくい現象を可視化し、理解を深める
  - 観測しにくい現象を動的にシミュレーションすることで理解をより深めることができる
- 
**外国語** 音声認識機能を用いた「話すこと」、添削機能を用いた「書くこと」への活用
  - 自信の音声の適切さを一人一人が確認する機会が充実し、英語を話すことに自信をもつことができる
  - 英文のエッセイ等を教師に電子メールで提出したり、英文で書いた内容について感想を伝え合う機会が充実する。
- 
**数学** 関数や図形などの変化の様子を可視化して、繰り返し試行錯誤する
  - PC上で関数のグラフや図形などを容易に変化させることができる
  - ノートよりも試行錯誤することに適している
- 
**社会** 課題意識に基づき、試行錯誤しながら多面的・多角的により深く考察する
  - 生徒一人一人が設定した課題の解決に向けて、必要な情報を収集し、主体的に探究することができる
  - データの分析・解釈が行いやすくなる
  - 多様な表現や発信手法をとることができる